

高千穂大学 教職課程だより

ご挨拶

教職課程運営委員長 松丸 啓子

高千穂大学教職課程で学ばれた卒業生教員の皆様、今年度をもってご卒業される皆様、在校生の皆様、そして、様々な活動を通じて本学教職課程にご支援を賜っている皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。皆様の日頃からの本学教職課程運営へのご理解とご協力に対しまして、心より御礼を申し上げます。

この度、『高千穂大学 教職課程だより』第 10 号をお届けすることができました。この『高千穂大学 教職課程だより』の発行は平成 27 年度より開始されておりますが、その主たる目的は、本学の教職課程で学んだ卒業生の皆様と在校生たち、教職員その他の関係者たち相互の交流の輪を広げ、絆を深めるとともに、本学教職課程における教員養成のさらなる充実と活性化を企図することにございます。そのような趣旨からも、本年度もこうして『高千穂大学 教職課程だより』を発行することができましたことを、本学の教職課程運営に携わる者の一人として大変喜ばしく感じております。

例年 2 月に開催されている「教員採用試験合格報告会」につきましては、コロナ禍の3年間は対面での実施ができませんでしたが、漸く昨年度より従来通りに対面で開催できるようになりました。おかげさまで、今年度は合格者が多数あったこともあり、例年以上に活発な質疑応答が展開されるなど、非常に有意義な時間を共有することができました。さらに、昨年度まで開催が見送られていた「高千穂大学卒業生教員と教職履修学生との情報交換会(高千穂大学卒業生教員の会)」も 4 年ぶりに開かれ、旧交を温めることができました。

さて、教員不足が指摘される昨今、各大学の教職課程においては、社会の発展のために教員という職業に興味のある学生を質的に高めることが求められています。そうした状況を踏まえ、文部科学省の昨年 5 月 31 日付資料「公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施等について」においては、教員採用試験の早期化・複数回受験可に伴い、教育実習の実施や教育実習を通じた学生の質向上に対する懸念が示されました。そこで本学教職課程では、2025 年度入学者より教育実習を 1 年度前倒しで実施可能にすることや、教育実習までに十分な教職科目を履修できるよう一部科目を 1 年秋学期から履修可能にすることなどが検討されているところで、本学教職課程で学ぶ在校生たちが新しい時代に相応しい教員としての資質や能力を身につけることができるよう、さらに指導やサポートの在り方をよりよいものに改善してまいりたいと考えておりますので、お気づきの点等がございましたら、ご助言いただきますようお願いいたします。「模擬授業室」や「教職相談室」が開設されるなど本学の教職課程関係の環境は年々整備されてきておりますが、そうした環境をフルに活用するためにも、卒業生教員の皆様との連携をより一層緊密なものにできれば幸いです。今後ともぜひご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

(人間科学部)

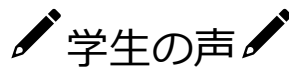
教育実習報告会（7月15日）

2023年7月15日(土)午後12時30分より、1101教室にて、「2023年度教育実習報告会」が行われました。

「教育実習体験報告」として、UさんとNさんが小学校での実習、Yさんが中学校での実習、IさんとSさんが高校での実習について、スケジュール、実習校の紹介、実習中の1日の生活、研究授業等に関する報告をしました。各報告に対して教職課程運営委員の先生方よりご講評をいただき、参加者一同にとって非常に有意義な内容となりました。報告後は、「セキララトーク」というグループワークの時間がはじめて設けられ、実習に参加した4年生と下級生とが教育実習について熱心に語る様子が印象的でした。また、昨年に引き続き、会場内には展示コーナー(学習指導案や実習中に役立った書籍、文房具など)が設けられ、後輩の皆さんや先生方が熱心にご覧になっていました。

これから教育実習を迎える学生の皆さんには、報告会で伝えられた情報をもとに、教材研究や実習準備を地道に進めていくことが期待されます。先輩から後輩への心のコもったエールが込められていました。運営の準備してくださった実行委員の皆さん、どうもありがとうございました。

(早坂 めぐみ)



教育実習報告会をふりかえって

人間科学部4年 I

教育実習体験報告会は、我々が体験報告をすることによって、後輩の皆さんの不安を和らげ、より良い教育実習にしてもらうために開催しました。今回の教育実習体験報告会は「セキララトーク」というコーナーを設けました。このコーナーは、皆の前では質問しづらい人も、たずねづらい質問を先輩に本音で答えてもらうという趣旨です。どのグループも楽しく色々なことが聞けていた様子で、「このコーナーやってよかった!」と思いました。

来年、体験報告会を運営される方は、後輩に何を授けられるかを第一に考えると良い体験報告会になると思います。そして、聞く方は是非隅々まで聞いて、教育実習や日々の活動のモチベーションにしてください。

教育実習報告会を終えて

商学部4年 S

私は高校での教育実習を行った代表として、教育実習報告に立たせていただきました。自分にとって教育実習は、非常に大変だったため、みんなの前で自信をもって話せるか不安でした。しかし、本番では自分自身が教育実習で感じたことや反省点、もちろん教育実習に参加した意義についても、本心を後輩や同期、先生方に伝えることができました。教育実習を経て教壇に立つ怖さを知りましたが、「みんなのために」という思いで発表したことにより、発表後は達成感が溢れました。教育実習報告会は、発表者から見ても学ぶことがたくさんありました。今後も継続してほしいと思います。

教職インターンシップ報告会（12月12日）

高千穂大学における教職インターンシップは、教職課程を履修している学生が自ら希望する進路に応じて大学が指定した小学校、高等学校、教育行政機関等の中からインターンシップ先を選択し、就業体験を行います。これにより、自分の適性と進路を見極め、教員としての職業意識の向上と学習意欲を喚起し、能力向上を図ることを目的に2～3年生を対象に実施しています。

本年度は保善高校へ2名が参加しました。保善高校では、実習生が参加しやすいように、夏休み中である9月に教職インターンシップ週間を設けて、集中的に実施されました。また、参加校と協議して、教職インターンシップ週間以外でも、学校説明会や文化祭などの行事にも参加されました。

12月に行われた教職インターンシップ報告会には1・2学年の教職履修者16名が参加しました。報告会では、学校の組織の役割や学校行事の流れが理解できたこと、そして授業のための教員の工夫などを実感できたことなど、教職インターンシップ参加者の感想が発表されました。

本学は、杉並区立浜田山小学校、済美小学校、高井戸小学校、杉並第二小学校、保善高校と提携して教職インターンシップを実施しています。次年度も皆さんの積極的な職場体験の参加を期待しています。

（崔 玉芬）

学生の声

教職インターンシップを通して

商学部3年 K

私は9月11日～10月1日、保善高校で教職インターンシップに参加しました。学校説明会や文化祭や授業補助など様々な経験を通して、教職インターンシップでは、大きく分けて2つの収穫を得ることができました。1つ目は、教師としてのやり甲斐です。これは、実際に体験しないと中々実感できない部分だと思います。具体的には、授業や文化祭で生徒たちと直接関わることで、生徒から感謝の言葉をいただきました。生徒たちのために頑張った良かったと実感できました。2つ目は、生徒の充実した学びを実現するために教員はたくさん工夫していることです。授業や学校行事を運営するための入念な事前準備、生徒と関わり易くするために教師から生徒に話しかける等、生徒のために一生懸命に頑張っていることを改めて実感できました。

教職インターンシップと聴くと、堅苦しい印象や、何かと厳しい印象があるが、実際はそうではありません。教育実習をする前の準備や、教師としての在り方を現場で体感できる実習なのだと思えます。

教職インターンシップに参加して

商学部2年 M

私は8月23日～9月30日、保善高校で教職インターンシップに参加しました。私は教職インターンシップに参加したことで、様々な先生方の授業の進め方を見学することができました。ま

た、授業中の生徒に対する心がけについても教えていただき、自分が生徒だった時には感じる事ができなかった教員の考えを知ることができました。他にも、普段の職員室での様子や文化祭や学校説明会にも参加させていただいたため、行事中の先生方の動きも知ることができました。インターンシップ期間に様々なことを経験させていただいたことで多くのことを学ぶことができ、普段の大学でも実践現場を意識して考えられるようになりました。教育実習前に、生徒との関わり方や授業中の心がけをイメージすることができ、改めて教員になりたいという気持ちを確認することができました。今回の体験を活かし、教育実習や今後の学習に生かしていきたいと思いません。

教員採用試験合格報告会（2月10日）

教員採用試験合格報告会が本年度も盛大に開催されました。

今年度、合格報告会で報告した4年生は7名です。しかし、すでに高千穂大学を卒業後に学校現場で講師をしながら再受験し合格された卒業生もおり、実際には高千穂大学の卒業生で来年度、教壇に立つ教員は、もっと多いこととなります。特に、今年度は、教職課程を履修されている学生の割合からみるとかなり多い合格率を達成することができました。

報告会は早坂先生の司会進行のもと、セントラル・スクエアの2階のタカチホホールで開催されました。

まず最初に開会の挨拶と合格報告会の意義について寺内学長より御話をいただきました。

そのあと、教員採用試験の合格体験の報告です。

(小学校)

・Nさん【東京都合格(大学推薦)】

・Tさん【東京都合格(大学推薦)】

・Oさん【東京都合格(養成塾特別選考)】

・Tさん【東京都合格(個人出願)】

(中・高等学校)(3名とも個人出願)

・Yさん【私立高等学校合格】

・Yさん【東京都合格】

・Nさん【千葉県合格】

以上、7人の合格者の皆さんからの実際の学科試験や小論文試験、さらに面接などについて、実施された日時や具体的な内容、そのための勉強方法など、ためになる話を聞くことができました。これから教職をめざす人には多いに参考になったと思います。高千穂大学の学生は、この合格報告会があるおかげで、合格者の皆さんから話を貴重な話を聞くことができます。他大学の学生より一歩も二歩もリードすることになると思います。がんばりましょう。

次に教育実践報告ということで、卒業生で現在、学校現場で活躍されている小学校と高等学校の先生に来ていただいて話を聞きました。

・埼玉県 高等学校 N 先生

・東京都 小学校 S 先生

やはり教壇に立っているだけあって話が上手でした。話の内容からは、教育現場の難しさや忙しさと同時に生徒とともに楽しく仕事をしている様子が伝わってきて、教職課程を履修している学生にはたいへんよい刺激になったと思います。先輩たちは楽しそうだなあ、がんばっているなあという雰囲気が報告の中からひしひしと感じられて、たいへんよかったです。

続いて、杉並区済美教育センターの統括指導主事の保土澤尚教先生より講評をいただきました。

そして、松丸啓子教職課程運営委員長より総評をいただきました。

最後に、人間科学部教授の鈴木隆弘先生より、「学校教育と ICT 活用－授業における改善を中心として－」という題で講演をいただきました。社会全体で IT 化が急速に進んでいます。学校でもパソコンなどの情報通信技術を活用した ICT 教育の導入は必要不可欠です。この ICT 教育について、本学で最も ICT 教育に見識のある鈴木先生より、ICT 全般の話から始まり、様々な角度からの導入事例について教えていただきました。学生たちは、おおいに興味深く聞き入っていました。 (松丸 明弘)

卒業生教員の会 (2月10日)

「教員採用試験合格報告会」から引き続き「卒業生教員の会」を開催いたしました。

対面での開催、また懇親行事は 2019 年度以来となり、現職の先生方、学生、並びに大学教職員同士でも旧交を温めることができました。本会は、現職の先生方と現役学生との交流を図る機会であり、会の後半では OB 教員によって現役学生に対する採用試験対策などの就職に関するアドバイスも行われ、盛会となりました。藤井耐理事長の挨拶の後、寺内一学長による乾杯の挨拶に続き、ご参加いただいた全卒業生教員の方々からご挨拶をいただきました。本年は、現職の校長先生などのベテランの先生から、卒業後の対面開催が中止となったためにこれまで参加がかなわなかった先生方、そして、新任一年目の卒業生教員の方々も多く参加をいただくことができました。ご参加いただきました理事長、学長、先生方、また職員の皆様へも感謝申し上げます。 (鈴木 隆弘)

講演記録 学校教育と ICT 活用 (2月10日)

人間科学部 鈴木 隆弘

今月、総合学習で有名な学校の授業を参観する機会を得た。遊びに浸り、疲れた子ども達はおしゃべりを始めた。フォートナイト(オンラインゲーム)の攻略法についてである。このように今を生きる子どもたちから見れば、そもそも ICT 活用の「活用」という発想自体が大人の側の勝手な論理なのかもしれない。

高千穂大学における情報化は他大学をしのいでいる。ゼミ発表を見てもそのことはご理解いただけるだろう。教職課程も例外ではなく、2017 年には電子黒板が導入されていた。しかし、2018 年度の講義で Google クラウドを導入時の結果は惨憺たるものであった。学習者が使用する必然性が理解できなければ、ICT を使わせることは不可能だ。一方、2020 年のコロナ禍以降、大学ではさまざまな模索が続いている。文部科学省も 2020 年 5 月までは ICT を活用した遠隔・オンライン授業に前のめりだった。この間は多くの学校でも実践的な蓄積がなされたと思う。しかし、2019 年末に打ち出された GIGA スクール構想は、当初の計画とは内容も、その進度も大きく異なっている。その理由として ICT 化の推進を巡るさまざまな対立を押しえておく必要があるだろう。ただし、この対立には、コロナ禍における社会の混乱への憤りが紛れ込んでいるかもしれない。社会への憤りが、ICT 化そのものへの批判になっていないか。ICT 化の是非とコロナ禍に於ける教育的対応については切り分けて考える必要がある。私たちが今、ここで考えるべきことは、あくまでも 10 年後、100 年後を生きる子ども達にとっての ICT 化の意味だ。

ICT 化の急速な進展により、今後は技術的な適応ではなく、どのように思考のためのツールとして活用するかが問われている。学習場面だけを切り出せば、ICT 化以前の実践の延長線上に過ぎないかもしれないが、時間的制約から取り組みにくかった授業感想の徹底的な分析が可能になっている。授業中に考えたことを即座に集計して黒板に示すこと、授業の中にゲームを取り入れ、遊びながら思考させること、授業全体をゲーム化する Google クラウド向けのアドオン(機能拡張ソフト)を活用することなどが可能となっている。中でも、大学でのオンライン講義の成果から見ると、最も成果があげられる活用方法は反転学習だと言することができる。生徒たちへ事前動画の視聴を義務づけ、予習させることで、授業の全時間を討論などの思考・判断・表現の活動にあてることができる。アクティブラーニング化の上でも反転学習は有用だといえる。

しかし、予習時間用の動画の準備は誰がするのか。働き方改革がうたわれる現在、その時間は教師達にあるだろうか。また、家庭における子どもの生活時間が「予習」に費やされるとすれば、学校教育が家庭の中まで浸透することになる。ICT 化をテコとして、生活スタイルを学校中心に変化させることは許されるのか。ただ、技術的進歩は障がいを持つ児童・生徒にとっての福音でもあった。弱視の子どもも iPad を活用することで教室の後方に着座して授業に参加することが可能になった。その成果をまず確認したい。しかし、たとえば VR ゴーグルという新しい ICT 機器は乱視の子どもを学びから排除していないだろうか。「いつ、どこで、どのような目的のために ICT を活用して、どのような資質・能力を伸ばすのか」が今後は問われることになるだろう。

(本稿は、実際の講演内容を元に鈴木自らが講演記録として書き改めたものです。)

新任教員紹介

着任のご挨拶

人間科学部 崔 玉芬

2023年4月より着任しました崔玉芬です。担当科目は「教育心理学」、「教育相談の理論」、「生徒指導論」、「教職インターンシップ」「専門ゼミ」などです。

私の専門は教育心理学です。教育心理学は、心理学の視点で教育をみる学問だと私は理解しています。教育心理学は、発達、学習、適応、評価などの内容で構成されています。教育心理学は、心理学の成果を応用し、よりよい教育や学びの在り方を探る学問です。

私は今日まで様々なテーマを持って、量的・質的研究を行ってきました。大学院生の時、主に中学生を対象に研究を進めてきましたが、現在は対象を小学生から大学生まで拡大して研究を行っています。研究内容は、自己制御、学校適応、メンタルヘルス、社会的スキルなど広い範囲で研究を行ってきました。近年は、道徳教育に関する研究や学校防災・減災に関する研究を行っています。教育現場の問題解決や教育的示唆ができるような研究を行い、少しでも教育に役に立てばと考えております。心理学に興味のある方は、ぜひ私のゼミに入ってください。

私は中国で大学を卒業した後、中高一貫校で勤めました。その後、日本へ留学して学位取得後、群馬県にある大学で教職に携わり、現職に至っております。大学院生の時は、非常勤として公立中学校で子どもたちの支援を行った経験もあります。このように振り返ってみると、私はずっと学校を離れたことがないですね。それくらい教育・学校が好きなのでしょう。また私は、中国、日本、韓国の文化背景をもっていますので、授業中に学校現場の話や文化の話もあると思います。

大学では自分の好きなこと、自分の学びたいことを、高い専門性のもとで深く学ぶことができます。私は授業を通して、皆さんが教育について深く理解し、問題解決や実践的な応用ができるような知識・スキルを身に付けられるよう、サポートしていきたいと考えています。ぜひここで、自分の未来を切り拓くことのできる人になりましょう。教職履修生は大学卒業後、教員の道を歩む方も、違う道を選択する方もいると思います。どの道を選んでも、教職課程で学んだ知識は皆さんの人生に役に立つと思います。大学での学びや努力は必ずあなたの人生を豊かにすると思います。また、私自身も常に新しい知識や発見を追求し続け、授業を通して皆さんと共に学び、成長できることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します。

教員採用選考 合格体験記

今年度、教員採用選考に合格した方々に、対策の仕方や実際の選考を経験してのアドバイスについて4名の学生に寄稿していただきました。

二次試験対策、特に面接について

人間科学部 4年 T

私は教員採用試験の準備として、特に二次試験対策に力を入れました。二次試験で大切なことはとにかく謙虚であり、面接官とのやりとりからも学ぼうとする姿勢です。また、面接で話したいことについては、とことん深く調べておくといよいでしょう。面接官は元教員などの教育のプロであるため、過去にそのテーマについて研究をしている可能性や、専門でなくても私たちよりもよく知っています。難しい言葉や横文字を使って、突っ込まれてしまったり、質問されて答えられなかったりすると、そこで終わりです。面接で難しいことを聞かれても、適当に答えるのではなく、許可を貰ったうえで考える時間をとり、誠実に答えましょう。

教員採用選考について—私立高校の場合

商学部 4年 Y

私は、私立高校の教員採用選考を受験しました。その高校の選考方法は小論文と面接でした。小論文については学校見学に伺った際にどういう題材になるかは窺っていたので、事前に学校のホームページを見ながら校風や方針に沿った小論文をある程度書けるように、何回か練習をしました。

また、面接については、小論文と同様にホームページに記載されている内容を頭に入れて答えられるようにすることや、事前に面接の練習を繰り返すことはもちろん重要です。さらに、面接で場面指導について聞かれることがあるので、模擬授業がない選考方法であったとしても、気を抜くことなく模擬授業の練習を積んでおくと思います。

今回、受験した高校の求人は教務課の方からお話を頂いたので、公立だけでなく「私立の教員になるのも良いな」と考えている人は、教務課の方と密に連絡を取り合えるようにしておくというのも必要です。

教員採用選考について—勉強、勉強、勉強、休憩、勉強

商学部 4年 Y

私は、東京都の教員採用試験を受験しました。中高の試験内容は、1次が専門教養・教職教養・小論文、2次が面接です。専門教養の勉強をアドバイスしたいところですが、実際は人それぞれ違います。早めに勉強を始めて、自分に合う方法を見つけてください。また、試験内容は早めに知っておきましょう。私は3年の春頃に試験内容を知り、絶望したのを覚えています。

教職教養は、高千穂大学でおすすめされる参考書が良いです。個人的には、教育心理や教育史は結構面白いですが、学習指導要領と教育法規はつらかったです。小論文に関して、私は母

校(公立)の先生に指導していただきました。様々な先生や先輩に指導していただくのが一番よいと思います。快く協力して下さるはずです。面接は、どれだけ自分が教員になりたいのかを本気でアピールしてください。

教員採用試験に向けては、「勉強、勉強、勉強、休憩、勉強」です！沢山やればやるだけ自信がつきます！いい先生になるぞ！

教員採用試験に向けてのアドバイス

経営学部 4 年 N

・筆記

千葉県は教職教養の範囲が指定されているため、その部分の過去問を解き、完璧にする。また、千葉県の教育目標なども問題で出るため覚える。これも範囲が指定されている。

・模擬授業

5~7人で行い、講師など教壇に立ったことがある経験者が含まれていたように思う。1人が授業をして、他が生徒役。授業の順番は、新卒予定者が先で、経験者は後の方であったかと思う。テーマはその場で言われるが、授業についてはある程度考えておくことが大事。生徒役とコミュニケーションを取るのも大切。

・面接

面接官は二人で、とにかく深いところまで聞かれた。自分が言ったことから、どんどん掘り下げられる。雰囲気は想定していた以上にピリピリしており、緊張感があった。

○本年度教員採用者について

2023年度新規教員採用者は9名(3月1日現在:教務課把握分、教諭のみ)です。

卒業生教員の皆様におかれましては、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

<小学校教諭採用>

<中学校・高等学校採用>

特集 教職課程での学びをふりかえる

今号の特集は、卒業される教職課程履修学生の皆さんに「教職課程での学びをふりかえる」というテーマで、寄稿をお願いしました。

内容は、教職課程履修の動機、心に残る授業、教育実習、教職課程で学んだ意義や大変であったこと、そして教職課程での学びをどのように未来につなげたいか等、多岐にわたります。これらは学生の皆さんのリアルな声であるとともに、後輩の皆さんへのメッセージでもあります。皆様、ぜひお読みください。

教職課程を履修した動機

○商学部 4年 S

私は、高校を辞め一度は高校生活を諦めていたのですが、転校先で出会った先生方のお陰で楽しい高校生活を送ることができ、一生に残る思い出ができました。この経験から自分も教師になり、「同じ境遇で悩んでいる生徒の支えとなり、生徒が楽しいと思える高校生活を一緒に築いていける教員になりたい」と思いました。

高千穂大学の教職課程では、他の大学と違い、先生と生徒の距離が近く、教師になるための知識や技術を学べ、教員になる夢を叶えられると思ったので教職課程を履修しました。

○商学部科目等履修生 S

私が教職課程を履修した動機は、ある先生との出会いでした。それをきっかけに同じ現場に立ちたいという夢を持ち、教員を志望しました。

実際に教職を履修したことで、教員という仕事の大変さや辛さを肌で感じました。その一方で、教育実習やインターンを通じて実際に生徒と関わり、教員の仕事の魅力も同時に学びました。多くの時間を割き、生徒と向き合う「先生」という仕事の実感を教職課程で知り、改めて素敵な仕事だと感じました。1人の人と向き合う時間は教員という仕事だけではなく、人生において必要な経験だと思い、教職課程を履修して良かったと強く思っています。

これから履修を続ける学生の皆様、色々な葛藤があると思います。しかし、どんな時でも自分と向き合ってくれる人が多くいることや、努力した分だけ生徒が笑顔で自分の頑張りをわかってくれる日が来るので、諦めずに頑張ってください。

心に残る授業

○人間科学部 4年 U

私が教職課程で心に残る授業は、「児童学概論」です。この授業で、はじめて「インクルーシブ教育」という言葉を知りました。不登校やいじめ、障がい、貧困など教育に関する様々な問題について学ぶことができました。自身が小学生だったときは気づきませんでしたが、クラスの友達みんな

なが、それぞれに何らかの問題を抱えている可能性があったことに気がつきました。インクルーシブ教育については専門ゼミでも研究したので、たくさん子どもたちと関わり、理解を深めつづけていきたいです。また、この授業では「ファシリテーター」の力を身につけるための活動を毎回行っていました。話を円滑に進め、意見を引き出すことを意識して行いました。様々な場面で、この授業で身につけたことを活かしたいです。

○人間科学部 4 年 T

私は、教育実習に行く前に、実際に教育現場で子どもたちと関わりたい、大学では学べないことを学びたいという思いで、「教職インターンシップ」を履修しました。授業を見学しながら、特別に支援が必要な子どもと関わったり、休み時間は子どもたちと絵を描いたりして過ごしました。印象に残っていることは、特に支援が必要な児童との関わりです。落ち着きがなくなり、教室を飛び出してしまう児童に対して、私は初め、心配で追いかけてしまいましたが、その児童は自分の気持ちを落ち着かせるために 1 人の時間を作っていることを知りました。私はこの体験から、何も知らずにただ追いかけるのではなく、しっかり子どもの気持ちを聞いて寄り添うことの大切さを学びました。また、このように実際に体験して学ぶことの大切さも教職インターンシップで知ることができました。

○人間科学部 4 年 O

私が 1 番印象に残っているのは、各科目の指導案の作成と模擬授業です。教育実習をするための準備として、多くの学びがありました。まずは指導案についてですが、これは授業をおこなうにあたって一番重要な準備だったと思います。本時の授業の流れを整理し、単元ごとの指導計画も立てました。最初は作成方法が何も分からなかったのですが、先輩方や先生方のサポートもあり、徐々に自分の力で作成出来るようになりました。また、模擬授業ですが、自分の個性を出せて楽しかったし、周りからのフィードバックも参考になりました。このように、大学での経験を活かし、教育実習に臨むことが出来たので、自信を持って取り組むことが出来ました。

教育実習をふりかえって

○人間科学部 4 年 N

私の実習校では、先生方がとても温かく対応してくださったので、結果的に伸び伸びと 1 ヶ月間過ごせたと感じています。私は教育実習中にバスケットゴールを破損してしまいましたが、この経験が自分にとって大きな気づきとなりました。学校は子どもたちの安全が大前提であり、学校の全ての設備において危険がないか確認する必要があります。わたしはこの経験から、校内の安全に気を配り、子どもの行動から怪我やトラブルに繋がるようなケースを予測して行動するようになりました。

このように教育実習での失敗から、気づけることが沢山ありました。また、授業では子どもたちと関係性を築くことによって、よい授業に繋がることを実感しました。大変な分、やりがいや楽しさを感じられるのが教師という仕事の魅力だと感じました。

○人間科学部 4 年 ○

教育実習では、大学で学んだことがありつつも、うまくいかないと感じることが多くありました。模擬授業ではできたことであっても、児童を前にするとできなくなったり、授業以外ではどのような指導が必要なのかまよったり、すべてが大変でした。

そんな中でも、実習校の先生方は私のためにたくさんのご指導をしてくださります。できない自分の姿を素直に認めて、学ぶ姿を持ち続けること。いくら不安であっても、児童の前では「先生」であることを考え、不安な素振りは見せないこと。これらを意識して実習に取り組みました。忙しく大変なこともありますが、できることを全力で取り組むことができれば、有意義な実習になると思います。

○商学部 4 年 T

私は、教育実習が私の価値観や見えていた世界を変えてくれたかけがえのない経験だと、教育実習が終了した今感じております。

教育実習までは、私自身も生徒として先生に接していました。私から見た先生とは、誰よりも見習うべき存在で、常に信じられる大人でした。今度は実習生という立場ではありますが、私自身がその立場になるんだという身構えと緊張で、実習前は頭がいっぱいでした。しかし、ただ漠然と教育実習に耐えるような 3 週間にはしたくはありませんでした。生徒にとっては、たった 3 週間ですが、私にとっては生涯忘れられない 3 週間になることは間違いないので、何かこの 3 週間で生徒に伝えられることや、自分自身の人生の分岐点と呼べるような内容の濃い 3 週間にしようと目的をもってのぞみました。

授業を作成する大変さ、授業を順序だてて生徒に行い、伝える難しさ、毎日生徒や先生方から常に見られているというプレッシャーは私の想像以上でした。緊張するのは最初だけで、慣れるだろうと感じていた授業も、最後まで緊張が溶けることはありませんでした。しかし、私はとても楽しく、素晴らしい教育実習の日々でした。眩しすぎる生徒の活気と笑顔に、毎日エネルギーをもらって、今日はどんな表情をみせてくれるのだろうと、担当のクラスに向き合いました。どれだけ大変でも、この生徒たちの前で妥協はできない、したところで全て見透かされてしまうと思っていたのです。私は今回の教育実習によって、視野が広がりました。それは大学で教員免許を取得しようと頑張ってきたところから、それまで知らなかった世界に飛び込むことはとても素晴らしく、結果様々な出会いと自分の知らない一面に出会えたからです。

私の教育実習に携わっていただいた高千穂大学の先生方、実習生の同期、家族、実習先の先生方や生徒、全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

○人間科学部 4 年 H

教職課程で学んで良かったことは多岐にわたります。まず、学校での教員経験のある先生や、現職の先生からも学べる環境が整っています。単なる体系的な知識だけでなく、実際の現場でのノウハウも学びながら、より実践的な知識を身につけることができました。

特に高千穂大学の教職課程は少人数制であるため、授業によっては模擬授業の時間が設けられています。模擬授業では、少人数のクラスで実際の教育現場を想定したシチュエーションで授業を進行し、他の学生や教員からフィードバックを得ることができます。これにより、自身の教育スタイルやコミュニケーション能力を向上させるだけでなく、実践的なスキルも効果的に身につけられました。模擬授業を通じて得た経験は、将来の実際の教育現場で役立つと思います。

○商学部 4 年 O

先生方の研究に沿った内容の授業を受ける事ができ、新たな視野として学習、考えを深めることができた。また、学校の先生として現場で教鞭を執られていた先生方からは、実例を聞くことができ、より鮮明なイメージを描いた上でそれにどう対応するかを考えるきっかけを得る事ができてよかったです。

○人間科学部 4 年 W

1 限から 5 限までの授業がほぼ毎日、2 年間続いたことや、厳しい指導にくじけそうになることがありました。まず、過酷なスケジュールについては、毎日同じように頑張っている友達が身近にいて、俺も頑張ろうというマインドになり、頑張ることが出来ました。次に、厳しい指導については、特に模擬授業がつかったです。誰も合う先生、合わない先生がいるものです。先生に気に入られようとするのではなく、単位修得や教育実習に向けて乗り越えるぞというマインドで臨めば、頑張れると思います。

○人間科学部 4 年 K

教職課程で大変だったことは、授業数が多い点です。教科が多いということは、関わる先生の人数も多いということになります。先生によって、授業での資料の活用方法、授業方法や提出物の期限が異なり、それを把握することが大変でした。

しかし、それを把握することは重要です。指導案の提出や模擬授業のスケジュールを把握するために、私自身は、スマホのスケジュール帳に予定と提出方法を記入したり、スマホのカレンダーにリマインドを設定したり 1 週間の ToDo リストを作成し終わったら消すなどして忘れないようにしていました。

○商学部 4 年 I

教職課程を続ける上で大変だったことはいくつかあるが、まず修得単位数が多いことがあげられる。もう一つは、段階を踏んでいくと模擬授業を行なうが、そこで自分の授業力がなく、自信がなくなってしまうことである。だが、最初からうまくいく人はいない。たくさんの経験を積んでいくうちに授業力が高まり、教育実習でも実際に役に立つことばかりだった。頑張れば頑張るほど力がつくので、めげないで頑張してほしい。そして教育実習は人生においてとても良い経験になり、教師としての力だけではなく、1 人の人間としての力もつく。後輩のみなさんにも頑張してほしい。

○商学部 4 年 N

一番大変だったことは、教職科目が卒業単位や履修上限に含まれないなかで、24 単位多く履修していたことである。そして、単位を落とすことは出来ないのも、どの授業も気を抜かず、忙しかった。1 年次から教員免許取得に必要な憲法や、教科によって異なるが日本史、世界史など履修し、単位を取得することで 2 年次から始まる教職課程に集中して取り組むことが出来た。また、同じ教職課程の仲間や友達と協力して授業に取り組み、単位を取得することで、教育実習や今後の人生にいかせると考えた。どの授業も取り組むときはしっかり集中し、休むときに休むと切り替えて、教職課程を続けることができた。後輩の皆さんも、頑張ってください。応援しています。

○人間科学部 4 年 U

教職課程で改善したほうがよいと思うことは 2 点あります。1 つめは、教職では各教科の指導法の授業で模擬授業があります。「教育実習前の経験のため」という名目で行われると思うのですが、私はあまり身にならなかったです。理由は、児童役のリアリティが足りないということです。模擬授業内で発問や問い返しをした際、本来見込まれる児童の反応とかなりの差異があります。確かに授業 1 回分をやりきるといって学びにはなるのですが、実習中の授業と全く違う結末になることが多いので、模擬授業を改善するべきだと考えます。2 つめは、教職の授業のほとんどが卒業単位に含まれないことです。負担が大きくなり脱落者が増えるので、全ての教職の授業を卒業単位に含むべきだと考えます。

教職課程での学びを未来につなげる

○人間科学部 4 年 O

・理想の授業展開

児童主体で展開されていくことを第一に行いたい。めあては、今までの学習を踏まえて自分たちの言葉で設定することを目指す。見通しや予想を立てて問題に向き合うように促したい。そして、授業の最後には、振り返りを行い思考力・表現力を養いたい。また、考える場面では、1 人で考える時間と、班や周りの友人と意見共有する時間を分ける。1 人で考える時間には、タイマーを使用して集中させ、班での時間は何分までと示すことで周りを見ながら話し合いを進められ

るよう工夫する。また、体育や図工などの教科では、準備する用具とその配置をあらかじめ示しておくことで、児童が自ら行動して児童中心で授業が始まるように心がけたい。

・教員像

上記の授業展開をおこなえるように、幅広い知識を持ち合わせるだけでなく、児童とコミュニケーションをしっかりと取り、個性を理解し、広い視野で全体を見渡せる教員でありたい。コミュニケーションをとるためには、同じ目線に立ち、共に歩むことを意識していきたい。

○人間科学部 4年 S

わたしは、「なぜ勉強をするか」や「この先どうやって大人になるか」などを子どもとともに考えたいという動機から、教職課程を履修しました。卒業後は自身の夢である、バスケットボールのプロ選手を目指します。プロ選手はファンの方との交流や、小中学生のスクールコーチなどを行います。大学で学んだことをそのような活動に活かし、人々から応援されるような選手に、そして、コーチとしてはバスケットボールを通じて、子どもたちに人生において大切なことを教えられるようになりたいです。

○商学部 4年 I

「人生の夏休み」ともいわれる大学生活において、教職課程を履修することは人生を大きく左右します。

友達が昼まで寝ているなか、1限に登校する。友達が遊んでいるなか、レポートを書く。

また、教育実習期間は「キリンになったのか」と思うほど睡眠時間が短く、教職課程はとても厳しい3年間でした。

何度も逃げ出したいと思いました。何度も辞めようと思いました。もう一度言います、何度も辞めようと思いました。しかし、ここまでやりきれたのは、「辛い」と言い合える仲間がいたから、気にかけてくれる先生がいたから、支えてくれる環境があったからでした。

これからは私がその環境を作ります。宣言します。「私は、人生を支えられる教師になります。」

<本学教職課程の概要について>

(1) 取得可能な免許種

高千穂大学教職課程では、以下の免許を取得することができます。

免許状はすべて一種教育職員免許状です。

学部	専攻	取得可能な免許種
商学部		高等学校(商業)／高等学校(公民)／高等学校(地理歴史)／ 中学校(社会)
経営学部		高等学校(商業)／高等学校(情報)
人間科学部	人間科学	
	児童教育	小学校(全科)

※ 商学部では、高等学校(情報)／ 経営学部では、高等学校(公民)(地理歴史)・中学校(社会)免許状取得も可能。

(2) 年間行事予定

教職課程では、教職課程運営委員会の下、主に以下の行事を実施しています。(予定)

月	行事	内容
4 月	履修ガイダンス	春学期履修に向け、学年ごとに実施します。
7 月	教育実習報告会	教育実習を終えた学生が、教育実習の体験を報告します。
9 月	履修ガイダンス	秋学期履修開始者を対象に実施します。
11 月	新規履修希望者ガイダンス	翌年度より新規履修を希望している学生を対象にガイダンスを実施します。
2 月	教員採用試験対策講座	教員採用を目指す 2・3 年生の希望者を対象に、採用試験対策講座を行っています。
	教職課程新規履修者面接	教職課程新規履修者希望者を対象に、面接を行い、履修の可否を決定します。
	教員採用試験合格報告会 卒業生教員の会	教員採用試験合格者及びお招きした OB・OG 教員より、合格までの道のりや教員生活の心構えなどをお話頂きます。

※教職課程履修者は「ガイダンス」「教育実習報告会」「教員採用試験合格報告会」参加が義務付けられます。

卒業生及び卒業された皆様へ

- 勤務先の変更・ご自宅の住所変更時
- 「学力に関する証明書」「単位取得証明書」等、証明書が必要な時
- 教職課程及び就職支援課に対する、私立学校等からの求人を知りたい時 等

以上の際には、学務部教務課までお問い合わせください。

[TEL:03-3313-0146](tel:03-3313-0146) MAIL:kyoshoku@takachiho.ac.jp

<目次>

- ご挨拶…………… p.1
- 行事紹介…………… pp.2-5
- 講演録…………… p.6
- 着任のご挨拶…… p.7
- 合格体験記……… pp.8-9
- 学びの振り返り… pp.10-15
- 事務連絡・編集後記・奥付…………… p.16

編集後記

今号は教職員のみならず、昨年よりも多くの学生のお力を借りて、充実した誌面となりました。多大なるご協力を賜り、御礼申し上げます。卒業される皆様のご健康とさらなるご活躍を祈念いたします。 (早坂めぐみ)

「高千穂大学教職課程だより」第 10 号

2024 年 3 月 20 日発行

<2023 年度 教職課程運営委員会>

委員長 松丸啓子 常任委員 早坂めぐみ

委員 鈴木隆弘 委員 松丸明弘 委員 崔玉芬

委員 大島久幸 委員 山田浩 教務課 北田大介・進藤しおり